

【道端の自然】

～ コモリグモ ～

緑地の畑にザクツ、ザクツとシャベルを入れていました。ふと見ると、掘ったところに、小さいクモが…。よく見ると、クモの下に白い塊があります。なんと、卵を抱いていたのです！これは、ウヅキコモリグモ・・・かな？

以前、緑地を楽しむ本として、『おんぶかあちゃん』（近藤久美子著 アリス館）を紹介しましたが、そこに出てくるかあちゃんです (<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/hon/onbukaachan.pdf>)。そのかあちゃんが、卵を体で守っていたのです。やあ、やっと会えましたね！

ウヅキコモリグモは、卵から子どもがかえると、子ども



たちをみんな背中に乗せて守り育てるのだそうです。そして、子どもたちは大きくなると、一人ひとり自分のはき出した糸につかまって、新天地へと飛び出していきます。『おんぶかあちゃん』の、クライマックス・シーンです。

蒸し暑くて、汗だくで作業している緑地ですが、その片隅で、こんなドラマが進行しているのですね。あの卵から子どもが生まれ、かあちゃんの背中に乗ってワイワイ賑やかになるのはいつ頃でしょう。次回の作業の時にでも、また会えるかしら？

(小川)